



2017年4月に開館した新図書館

## Contents

- 名寄市立大学学長と学生の対談  
大学の今とこれからについて語り合う
- 新図書館開館から1年  
図書館副館長：西田麻衣子さんインタビュー
- NCU Information：卒業研究発表会・報告会、新棟供与開始について



## 学長対談

佐古学長が名寄市立大学学長に就任して2年。これまでに達成できたこと、そしてこれからの大学像について、学生と語り合っていました。



(司会) <看護学科 喜多さん>

佐古先生が名寄市立大学の学長となられてから2年が過ぎました。2年間の成果と今後への思い、また名寄市立大学の課題などをお聞きしたいと思っています。よろしくをお願いします。

最初にそれぞれに質問があると思うので、聞いていきたいと思います。よろしくをお願いします。

<社会福祉学科・齋藤さん>

学長になられる以前は 病院長等の仕事をされていたと聞きましたが、病院と大学の違いというのを どのあたりに感じていますか？

<佐古学長>

そうですね。3つくらいあります。僕が大学に来て2年経ちましたけれど、一つ目は、組織としての意思決定の仕方が若干違うということです。どちらも大きな方向性は病院長や学長が決めるんです。その後細かなところはみんなで決める。

病院の場合は、ある程度病院長が自由に決められる。けれど大学の場合は、教授会が最高の意志決定機関なので、そこの承認を得ないと、学長といえども勝手にはできない。もちろん病院長も何でも勝手に決めているわけではないけれど。病院の場合も、いくら病院長がこうしたいと言っても、大事なことは職員がついてきてくれるかです。職員が協力してくれるかは 常に成果・結果を出していけるかということなんです。病院では、それが一つのチェックになっています。そういう意志決定の仕方

が違う

2つ目は、病院は企業会計。お金の問題ですが。診療報酬を得て、自ら稼いでそのお金を使っているわけです。もちろん市からの補助金等もありますが、基本的には自分でお金を稼いで、自分で医療機器を買ったり建物を建てたりする「企業会計」です。

大学は予算を作りますが、それを市の査定を受けて、市がこのぐらいの額でやってくださいと決定した予算を予定通り消化する。ここが2つ目の違い。

3つ目の違いは、それぞれの組織の特性なんです。成果・結果の見え方が違います。

病院の場合は、例えばある病気（心筋梗塞等）の死亡率とか治癒率がどう変わったかは、月単位、年単位である程度見えます。また例えば新しい診療科ができたとして、その診療科が一年間でどれだけ収益を上げたか、そこに医師が2人と看護師が10人の人件費がどれくらいかかって収益はどうか等の結果・成果が見えやすい。

それに対して、大学の成果というのは何か。短期的に計れるものには国家試験の合格率などもあります。本当の教育の成果というのは、みなさんが卒業してどこかの企業や病院などに勤めて、10年くらい経って「名寄市立大学の卒業生は患者さんの評判が良い」とか「いろいろな仕事もちゃんとできる、知識もある」という評価を得て、初めて本当の教育の成果がわかるんですよ。それは短期的にはなかなか計れない。ここに病院と大学の大きな違いを僕は感じています。



<栄養学科・角谷さん>

学長というお仕事は、いろいろ大変なこともあり、やりがいもまたあると思うのですが、何か苦労している点ややりがい等を伺いたいです。

<佐古学長>

苦労しているのは、僕は2年前に病院という言わば他から来たので、大学の実態や特性を最初十分理解していませんでした。それを理解するのに苦労がありました。それから、先ほども言いましたが、大学や教育というのは、成果がすぐに出ない。でもトップになったら、何か成果出したいと思うじゃないですか。そこがある意味辛いところですね。だけど、私がやめた何年か後に評価されればと思って仕事をしています。

やりがいは、これは「素晴らしい人を送っていただきありがとうございます」と名寄市立大学の卒業生が素晴らしいという評価を聞くのが一番のやりがいですね。実際聞いていますし。そういう評価を聞くのが一番のやりがいです。

<社会福祉学科・桃井さん>

学長になったときに一番実現したかったことは何ですか。また2年を経てそれはどれくらい実現していますか？

<佐古学長>

厳しいね。(笑) できるかどうかはわかりませんが、私がしたかったのは、「楽しい大学」につぎ。楽しい大学とは何かというと、例えば学習環境であったり、あるいは授業以外の部活動などが楽しくできることであったり。

私が着任したとき、夏、講義室がすごく暑いと感じました。エアコンが一部しかはいていない。これは僕の任期の内に全部入れると事務方に言いました。それまで事務は、一台で全部教室を補うことを想定しているんですね。そうすると空調機器はすごく高い。1機300万くらいもする。そうすると一年間に1部屋から2部屋しか入らない。でも、夏に30度越える。その30度が25度か26度になるだけで全然違う。家庭用のクーラーだと30万くらいで買える。二つだと60万。そうやれば少なくとも3倍か4倍速く入るじゃないですか。そのように指示して、去年も教室に少し入ったと思う。まず学習環境の改善ですね。

次に、カリキュラムが必修ばかりで隙間がない。これじゃかわいそう。私の時代も授業は多くて、勝手に自習時間にしていたんだけど(笑)。

名寄の場合、1講空いたらどこかに行きたいけれど、

どこか楽しいところがあるかということ、なかなか近くに何も無い。

今度できる食堂には外にテーブルが置けると思います。天気の良い日は、外で食べたりコーヒーを飲んだりね。友達としゃべったり、音楽を聴いたり。いわゆる「キャンパス」という雰囲気を作りたい。残念ながら、今はまだキャンパスという雰囲気じゃない。

最初に考えていたことのどのくらいができたかということ、正直まだ全然できていません。名寄市立大学が4大になって10年経ち、そのことをいろいろな資料で勉強しました。そして「名寄市立大学10年のまとめ」を書きました。これは、公表はしていないけれど、これを元にしてこちらの「大学の将来構想」を2016年に作りました。これはHPにも載せてあるので、学生のみなさんにも見て欲しい。いろいろな人の意見も聞いていますが、僕がしたいことはここに盛り込んであります。

みなさん方との関係で言うと、奨学金、独自型の奨学金を作る、それから学生寮。今は39名分しかない。名寄市がこれから独自で作るのは厳しいかもしれないけれど、民間とタイアップして、少なくとも今より安い料金とか、多少制限は付くと思うけれど作りたいですね。他にもいろいろ書いてあるので見て欲しい。

どれだけできたかと言うと、残念ながら正直この2年は何をするかの準備に費やされました。だから実現しているのは少ないけれど、計画は徐々に進んでいるので残りの2年で見える成果を出したいと思っています。あと2年見守ってほしいと思っています。



<看護学科・喜多さん>

せっかくの機会なので、学生のみなさんから学長への要望などありませんか。

<学生数名より>

本館と新館をつなぐ廊下がほしいです。

<佐古学長>

実は、それはすごくお金がかかる。(笑) 地下を掘る上に架けるかとなると、億単位になるんですね。ただこのようなことは、この地域全体を見て長期的展望の中で今後も考えては行きたいと思っています。学生のみなさんのいろいろな要望は今後も聞いていきたいですね。

もう一つ、新棟と図書館の間も何も無いので、せめて雨をしのげる屋根、ピローみたいなものを作りたい。ま、これもお金がかかるので市長が何というか・・・訴えてはいます。1年か2年かかるかもしれないけれど、あれば移動の時に大分違うでしょ。

<社会保育学科・池田さん>

学長になる前の名大生のイメージを教えてください。また学長となられてから、学生のイメージは変わりましたか？

<佐古学長>

みなさんのイメージは「素直で真面目」。あえて悪く言うと「ちょっと大人すぎる」かな。他の大学を卒業した人と仕事で一緒になると、他の大学の方がリーダーシップとっちゃったりするかなという心配がちょっとあります。個人差はあるでしょうけど。大学に来てからは、もっと「みなさん真面目だなあ」と感じている。

去年、旭川医大時代の看護部長（現北海道看護協会会長）だった方と会ったときに、「先生の大学の学生はしつけがいい」と言われました。女性的な表現かなとは思いますが。要するにみんな挨拶するじゃないですか。これは誰が大学に来て褒めますね。世の中だんだん挨拶をしない人が多くなっていますので、いつも挨拶してくれるみなさんの評判は良いですね。他の所からもうちの卒業生はまじめでしっかり仕事をすると言われるので、本当嬉しいですよ。これは伝統というか、先輩を見て育つわけですから、是非これからも守って欲しいと思っています。

<看護学科・瀬澤さん>

先ほどと話が重複するかもしれませんが、私たち学生にどのような学生であって欲しいと期待していますか？また卒業したらどのような社会人（例えば看護師等）になって欲しいと思っていますか？

<佐古学長>

何より学生生活を楽しんで欲しいと思っています。この4年間がみなさん方の人生で一番楽しい。今はお金もたいしてなくて大変だと思っているかもしれないけど、それでも楽しい4年間。勉強ももちろん大切だけど、勉強以外今しかできないことにチャレンジして欲しい。それから、社会人になってからは仕事に責任感を持つ。家庭、社会に一社会人として自分の責任を持つ人、責任を全うする人になって欲しい。

例えば看護師さんってけっこう生活が不規則なんですよ。夜勤のあと朝自宅に帰ってもなかなか寝れないんですよ。二日ずつ日勤、準夜、深夜勤務がある。そういう不規則な生活の中で、明日から日勤というのに、夜遅くまでお酒飲んだりとかすると、次の日体調不良で仕事に行くと、それが医療事故などに繋がったりする。だから、自分の生活のマネジメント等もできる、そういう社会人になって欲しいと思います。



<栄養学科・佐々木さん>

カリキュラムが新しくなって、「地域との協働」という連携教育授業ができ、私たちも1年・2年と授業を受けてきましたが、学長はその手応えや課題をどのように感じていますか。

<佐古学長>

みなさん方はどう感じていますか？

（学生から「楽しい」との声）

なるほど。先日（1月29日）「地域との協働Ⅰ・Ⅱ」の報告会がありましたね。僕も、全部ではないけれど聞かせてもらいました。資料ももらってきたので目を通しました。資料を見たり、報告を聞いて、いくつか感じるところがありました。

日本はご存じのように現在人口が減少しています。特に地方の人口減少が激しくて、地方から都市部へ人口移動が起きている。東京1極、北海道なら札幌1極。札幌は増えているけれど、北海道全体では減っている。札幌からも実は東京に人が移動している。この人口移動を逆回転させなければいけない。国は「地方創生」だとかいろいろ施策を掲げています。

このあいだの「地域との協働」の報告を見て、この中に地方創生のテーマ・アイデアがある。なぜ都会に行くかということ、都会の方が楽しいとかだけじゃなく、働き場所があるかどうかですよ。看護師とかの地元定着について名寄市もいろいろ施策を打っていますが、他の職種についてはあまり地方に仕事がない。まず働き場所を作ることが地方創生だと思います。

この「地域との協働」の報告の中にアイデアがいくつかある。よそから人と呼ぶようなアイデアがある。それを感じました。問題は、これを単なる授業の課題だからやったではなく、いかに事業（ビジネス）に繋げるか。これは教員の一つの仕事でもあると思います。

コミュニティーケア教育研究センターができました。そこが、この中からいくつか良さそうなものをピックアップして事業化に繋げるとか。そういう意味でも「地域との協働」は教育効果だけではなく、地方創生という地域貢献の視点からも非常に意味のある授業と思っている。中身についてはいろいろありますから、毎年意見を聞きながら少しずつ変えていくことも必要でしょう。

<看護学科・金子さん>

他職種連携教育について、医師というお仕事を長くやってこられた学長から見て、どう思いますか？



<佐古学長>

他職種連携教育、これは他の職業の職種への理解という点では意味のある授業だと思います。ただ他職種でも何でも、人と人との連携はコミュニケーションです。そのコミュニケーション能力があるかないかが非常に大事です。

そのコミュニケーション能力を育てるには「三つ子の魂100まで」という言葉もあるように、幼児教育、家庭教育が非常に大切だと僕は思っています。僕は医師として40年以上経つので、多くの若い医師などを見てきて感じるけれど、仕事に就いたときはほぼ人格が完成しています。人格が完成した後に変えるのは生半可では変わらない。5年10年一緒に仕事をして、仕事を見せて、それで変わる人もいるし、残念ながら変わらない人もいます。ただし「他職種連携教育」は先ほども言ったように、他の職種を理解し、連携していくツールは教えてくれる。やらないよりはずっと良いけれど、コミュニケーション力をつけるという根本的なことができるかはやや懐疑的。みなさん方はどう思いますか？

<学生>

学長もおっしゃっていたように連携する上で、栄養士さんとかの仕事を知らないと大変だし、連携もできないので、そういう意味では良い教育だなと思っています。

<佐古学長>

実際に病院に入ってみると、意外に連携がないですよ(笑)。残念ながらね。病院の方も今後連携を強化する必要があります。栄養指導とかではありますが、組織としてはまだまだない。だから、そういう教育を受けたみなさんが現場に行ったらこれから作っていく、変えていく、そういう意味では良い授業だと思います。ただ一番大事なコミュニケーション能力を育てるという意味ではどうなのか、そこは興味を持って見守りたいと思っています。

<社会保育学科・池田さん>

今年4月に図書館棟ができ来年度また新棟ができますが、建てる際に苦労したことやこだわった部分はあるですか？名称(新棟等)は決まったのですか？

<佐古学長>

僕が来たときには、もうほぼ設計等も決まっていたので、前学長の青木先生がいろいろ市と交渉して、特にお金の面などで苦労していただいたと思います。

だからこれから僕がしなければいけない苦労というと、せっかく作った図書館や新棟をいかに有効に活用するかですね。新棟はほぼ使い道がはっきりしているけれ

ど、図書館、特に1階部分ラーニング・コモンズの所などをいかに有効に使うかがこれからの苦労というかやるべきことだと思います。

それから、名称のことですが、みなさん方からも公募して決まりました。最もシンプルな1号館、2号館、3号館という名称です。1号館は今の新館、恵陵館が2号館で、本館が3号館となります。図書館は4号館に相当しますが、やはり図書館は「図書館」の方が良いということでした。そして新しくできる建物が5号館となります。今後オフィシャルにはこれを使います。

(旧)の名称に慣れている人もいるので、しばらくは旧本館とか旧新館、旧恵陵館とかも併記でいこうと思っています。大学のHPにも地図と新名称を載せてわかりやすくしたいと思っています。

<栄養学科・佐々木さん>

名寄の町の印象、学生にぜひ見に行ったり感じたりして欲しい場所や食べ物・イベントなどはありますか？

<佐古学長>

僕ね、名寄には1992年に初めて来たので、大分経ってしまって、もう名寄の印象忘れちゃった(笑)。

まあ、オープンキャンパスでも僕はよく言っているんですが、「見た目は田舎だけど、日常生活には困らない」ってことですよね。あと、交通の便がけっこう良い。まずJRが走っています。それから一時間半くらいで飛行場に行けますし、飛行機の便もまあまあ良い。この二つは大きいですね。高速道路も土別までは来ているので、いざとなれば車で札幌等に行くことができる。

是非見に行ったりしたらいい場所・・・そうですね。食べ物はどこが美味しいとか、おいしくないとか、具体的に言い過ぎると差し障りがあるかもしれないですね。

その頃はね、僕は脳神経外科医だったので、脳外科って最低2人いないと手術ができない。すべての手術できる医師は僕だけだったので、休みの時にもいつでも手術できる体制を取っていた。どこかに行くにしても1時間以内のところ。おかげで、この地域の温泉はほとんど全て入りました。どこに行っても、何かあったら呼び出ししてもらおう。当時はポケベル。携帯まだはなかった。温泉の中には持って行けないので、受付に預けてね。呼ばれたことは滅多にないですけど。

そうやって温泉なんかに行って、場所場所の美味しいものや変わったものを食べるのが楽しみでしたね。下川町の五味温泉とか音威子府の黒いソバ、手塩の「夕映え温泉」や「道の駅」等も思い出深いですね。

それから天文台のプラネタリウム。良いですよ。夏はクーラーが効いているから昼寝にもいい(笑)。

<看護学科・喜多さん>

最後に名寄市立大学で学生生活を送る上で、学生へのアドバイスをいただければ・・・。

<佐古学長>

大学時代の友人って大抵生涯の友人になるんですよ。それは就く仕事が共通であったり、勤務場所も比較的近かったりということもあるけれど。だから4年間で生涯の友を作ることが非常に大切かなと思います。

良い友達というのは、けして品行方正というわけじゃなくて、自分の思いが言わなくてもわかるくらいのね。大体悪友が多いのかな。本当の友人というのは3~4人かな。今も近くに行ったら必ず会ったり遊びに行ったり、いっしょにお酒を飲んだりしますね。彼らも懐かしんで時々北海道にも遊びに来るので、その時には出向いて会ったりもします。

仕事をするといろいろ辛いことがあるし、あるいは結婚して家庭を持ってそれなりに悩みが生じることもあります。それを正直に相談できるのは、親でもなく先生でもなく上司でもなく親友だと思います。そういう意識で付き合っているわけではないけれど、自然にできるんだけどね。そんな意識を持って学生生活を送ると良いかな。

<看護学科・喜多さん>

今日は丁寧にお答えくださりありがとうございました。今後も、名寄市立大学がもっと素晴らしい大学となるよう、佐古学長にもリーダーシップを大いに発揮して

いただければと思います。私たちも、先ほどのアドバイス等を取り入れ、これからの学びをがんばっていきたいと思っています。今日はありがとうございました。

<佐古学長>

こちらこそありがとうございました。学生の意見をどうやって収集するかについて「将来構想」に盛り込んだと思っているけれど、これは計画。いつでも見直していきたいと思っています。みなさん方とまた意見を交換できる機会があれば、喜んで会いたいと思っています。今日はありがとう。



栄養学科3年  
角谷風花  
北海道名寄高等学校出身



栄養学科3年  
佐々木留奈  
北海道旭川西高等学校出身



社会保育学科3年  
池田華菜  
札幌第一高等学校出身



看護学科3年  
金子聖奈  
北海道えりも高等学校出身



看護学科3年  
喜多純菜  
北海道紋別高等学校出身



看護学科3年  
瀬澤理菜  
岩手県立福岡高等学校出身



社会福祉学科2年  
齋藤涼平  
兵庫県立東灘高等学校出身



社会福祉学科2年  
桃井夕維  
富山県立高岡南高等学校出身

# 新図書館開館から1年が経ちました

2017年4月、名寄市立大学に新図書館が開館し、約1年が経過しました。開館に伴い図書館副館長として着任した西田麻衣子さんに新図書館の機能や取り組み、そして西田さんがこれまで前職で経験してきたことなどについて伺いました（聞き手：マーティン メドウズ准教授）。



<メドウズ>

まず、ちょっとした自己紹介ではじましましょうか？西田麻衣子はどういう人物ですか？

<西田>

平成29年11月に名寄市立大学図書館に着任しました。十勝の生まれで、高校在学時に留学したニュージーランドの1年間と前職である国際教養大学に勤務した秋田の12年半を除いては、人生の多くを北海道（十勝と札幌市）で過ごしています。25歳で就職して以来、私立大学、国立大学、公立大学に勤務しました。

<メドウズ>

名寄に来たのは冬が始まった2017年11月でした。名寄の印象は？寒くて雪の多い冬の生活に慣れましたか？

<西田>

名寄を初めて訪れたのは2017年7月でした。30度を優に超えるとても暑い一日でした。出会った名寄の方とはとても親切で、親しみやすく感じています。実際に暮らしてみると、面倒見がよい方が多い印象です。

北海道は広大で、私の故郷である十勝からは遠く離れているのですが、名寄に数か月暮らしまして、故郷に帰ってきたように感じています。



（写真：西田麻衣子 図書館副館長）

<メドウズ>

何か冬にしかできない活動を楽しみましたか？

<西田>

日本一の雪質を誇るピヤシリ・スキー場に行きました。それから、同僚や学生の皆さんとかまくら作りやアイス・ランタンを作って楽しみました。巨大かまくらの中のテレビでオリンピック観戦をしたこと、アツアツの絶品チーズ・フォンデュはこの冬の素敵な思い出になりました。



<メドウズ>

名寄に来る前は秋田の国際教養大学に勤務しておられました。どのような仕事内容でしたか？

<西田>

名寄に来る直前は秋田の国際教養大学に勤務していました。12年半のうち、その大半を図書館職員として勤務しましたが、経済支援担当としての勤務経験もあります。

<メドウズ>

その仕事では英語は必要でしたか？

<西田>

はい。国際教養大学はすべての授業を英語で開講しており、教員の半数以上が外国人、留学生が常に200人以上（全学生数の約2割）という環境でした。日本人の学生であっても、海外生活が長く、日本語よりも英語の方が得意と話す学生も多くいました。教職員はすべて英語で仕事をすることが条件でした。学内の会議も英語で行われ、議事録は英語で作成されます。図書館の蔵書も7割が洋書で、扱う論文も英語のものがほとんどです。

<メドウズ>

英語も堪能な西田さんですが、高校時代にニュージーランドに留学された経験があるようですが、それが初めての海外経験ですか？

<西田>

留学前には海外旅行の経験が何度かありました。留学をしたのは、高校時代が初めてです。ホームステイをし、セークリッド・ハート・カレッジというカトリックの女子高に通いました。世界各国からの留学生も多く、恵まれた環境で学ぶことができたことに感謝しています。

<メドウズ>

留学経験が西田さんの人生に与えた影響はどんなものですか？

<西田>

自分の生まれ育った環境では常識であることが、他の国や地域では常識ではないということを感じたことだと思います。言葉の壁を乗り越えて世界の多くの方たちとコミュニケーションを取ることができるようになったこと以上に、私にとっては大切な体験でした。ホストファミリーとは現在も交流があり、昨年もホストマザーが日本に遊びに来てくれました。

<メドウズ>

先ほどお話しいただいた留学経験以外にも、インドに行かれた経験があるそうですね。そこでの経験について教えてください。

<西田>

10歳の誕生日に両親からプレゼントされたマザー・テレサに関する一冊の本との出会いを通して、マザー・テレサに憧れ、マザーの元で活動することが私の夢でした。その夢がかなったのは、大学在学中であった20歳の頃のことです。学生時代の長期休暇のほとんどをコルカタでボランティア活動をして過ごしました。

<メドウズ>

当時マザー・テレサはまだ元気でしたか？お会いできましたか？

<西田>

はい、マザー・テレサの最晩年でした。私がコルカタのマザーの施設で活動を始めたのは1995年のことで、マザーは1997年に亡くなりました。マザーには毎朝6時のミサと午後6時30分からのアドレッションで会っていました。マザーの座る位置はいつも決まって、他のシスターたちの最後列でした。マザーと話す機会もありました。私自身、自らの無力さに耐えられなくて、「私はコルカタへ来るべきではなかったのでしょうか。」とマザーに尋ねたことがあります。マザーは微笑み、そして私に言いました。「これはあなたに与えられた使命です。神に選ばれて、ここへ送られて来たのです。」

23歳の誕生日の朝、ニュージーランドのオークランドでマザー・テレサの訃報を聞いた私は、葬儀に参列するためコルカタに向かいました。1997年9月13日にインド政府によって国葬として荘厳に行われたマザーの葬儀には各宗教の代表者が参列し、日本からは当時の社会民主党党首であった土井たか子氏、米国からはヒラリー・クリントン氏などが参列し、すべての貧しい人のために生涯を捧げたマザー・テレサが国境、人種、そして宗教を超えて、多くの人々に慕われ、尊敬されていたことを象徴するものでありました。





<メドウズ>

さて、名寄の話に戻りますが、名寄に来た魅力はなんでしたか？この仕事になぜ応募しようと思われましたか？

<西田>

二つの要素があります。一つ目に名寄市立大学が公立大学の中でも、小さな規模の自治体が設置する大学の一つであり、きめ細やかな教育を実現し、評価されていることに興味を持ったこと。

二つ目に、前職の国際教養大学で新しい図書館の立ち上げに関わった経験や学生の皆さんと関わってきた毎日を活かせるのではないかと考えたからです。新たな図書館の立ち上げは苦労が多くありましたが、とても充実しており、また新しい挑戦に胸が高鳴りました。

<メドウズ>

本学の図書館での仕事内容は何か、そしてどういうことを目指したいと考えているかを教えてくださいませんか？

<西田>

図書館全体のマネジメントにおいて館長を補佐することと新図書館の新たな機能として加わったラーニング・コモنزの企画・運営が主な仕事内容となります。

まだ産声を上げて間もない本学のラーニング・コモنزは、学生、教職員の皆さんの新たな世界との出会いや知的交流活動をサポートし、多様なアイデアが生まれる場所となることが期待されています。皆さんの学ぶ意欲に応え、よりアクティブな方向に向かって成長を続ける図書館を皆さんと一緒に作りたいと考えています。

また、本学図書館は一般の利用者にも開館されておりますので、地域の皆さんにも親しみを持って来館いただける「開かれた図書館」を目指しています。

<メドウズ>

現在、仕事で苦労している事はありますか？

<西田>

新しい挑戦には常に困難が伴います。特に前職の大学図書館とは蔵書構成も大きく異なりますし、学生の図書館へのニーズも異なります。本学図書館利用者のニーズをしっかりと分析したうえで、資料の整備を進めながら、新たにラーニング・コモنزの活動を軌道に乗せることを一番近くの目標にしています。

<メドウズ>

本学の図書館内の一番好きな空間はどこですか？

<西田>

夜のラーニング・コモنزが気に入っています。サークルユニットは学生の皆さんにも人気の場所で、閉館近い時間までよく利用されており、ビッグパッドを使って、発表の練習や、学生同士で活発に議論する姿が日々見られます。

<メドウズ>

お気に入りの本はありますか？

<西田>

子ども時代からの愛読書はミヒヤエル・エンデの「モモ」です。大人になった今でも、心から大切に思う一冊です。それから、一冊の本との出会いがその後の生きる方向性に影響したという意味では、フォトジャーナリスト・沖守弘の「マザー・テレサ愛に生きる」です。この一冊との出会いについては前の項目でお話した通りです。多くの方にとって、大切な一冊との幸福な出会いがあったらとの思いが、私の司書としての原点です。

<メドウズ>

本学の学生の印象はどうですか？

<西田>

控えめで、とても礼儀正しい印象です。そして、目的意識をしっかりと持って学業に集中している学生が多いです。

学生の皆さんの声を図書館運営に役立てたいと考えています。皆さんからもぜひ積極的なご意見を聞かせていただきたいと思います。

<メドウズ>

在学生及び新しく入学する名寄大学の学生へのメッセージがありますか？

<西田>

ふだん図書館をあまり利用しないという方も、新しい図書館に足を運んでみませんか。長時間の学修活動をサポートする「骨盤と背骨に優しい9度傾く椅子」や「スピーディな問題解決や意思決定を可能にする大型タッチディスプレイ」など最新の学修支援設備を用意して、9名の図書館スタッフが、皆さんの学修をサポートします。



# NCU Information

## 保健福祉学部の卒業論文の発表会・報告会、児童学科の卒業公演が行われました

2017年度の締めくくりとして、保健福祉学部栄養学科、看護学科、社会福祉学科の3学科では卒業論文の発表会・報告会が開かれました。また、社会保育学科では2年生が地域公演を行いました。



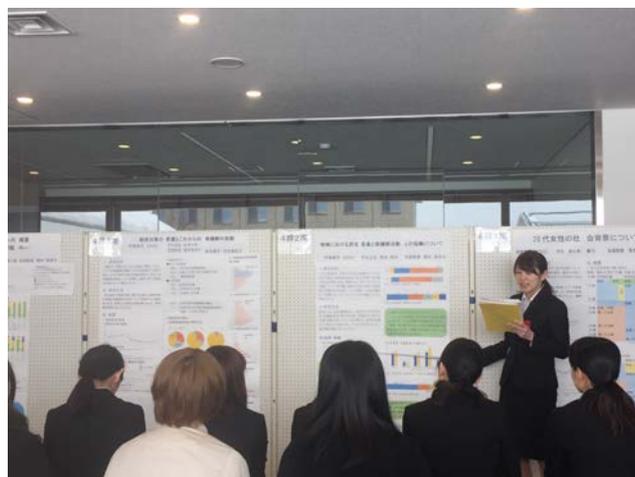
栄養学科卒業論文発表会（2017年11月27日）



社会福祉学科卒業研究報告会（2018年2月16日）



社会保育学科2年生地域公演（2018年2月18日）



看護学科卒業研究報告会（2018年3月6日）

## 2018年4月1日より新棟の供用が開始されます

教育環境整備および福利厚生施設の充実を目的として、2018年4月1日に新棟の供用が開始されます。新棟には、社会保育系および看護系の実習施設、食堂、売店などが設置されます。



### 編集後記：

佐古学長、図書館の西田さん、本誌のインタビューに快く応じていただき、ありがとうございました。佐古学長が学長に就任してから2年が経ちました。この2年間は大学の課題を抽出し、課題解決に向けた取り組みを考えるのにかなりの時間を費やしました。その作業の結果は自己点検評価報告書というカタチで近々まとめられます。今後はその報告書に沿って大学が変わっていくだろうし、変化してゆく大学の姿を社会にアピールしなくてはなりません。その手段のひとつとして大学のホームページは今後ますます重要な役割を担っていくと思います。広報Web委員会の今後の活動に期待します。

名寄市立大学広報Web委員会 委員長 小古間甚一

### <広報Web委員会>

小古間甚一  
中澤洋子  
永嶋信二郎  
今野道裕  
MEADOWS Martin  
山本達朗

2018年4月発行